

インフォーマーショウ サーキュラー no. 23

1976年2月

目 次

I	第14回運営委員会報告	1
II	日本発生生物学会第9回大会の御案内	4
III	国際発生生物学会議の準備状況	5
IV	会員名簿作製について	5
V	DGD充実のための基金募集経過	5
IV	会員移動	6

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物学教室内

事務局よりのおねがい

1. 会費納入のお願い

学会の会計が諸物価の値上り、会費滞納などのため大変苦しくなっています。会費の納入に御協力下さい。なお会費は前納制ですので、昭和51年度会費未納の会員も至急御納入下さいますよう、お願い致します。会費は同封赤色振替用紙にてお払い込み下さい。念のため、年間会費は4,500円です。

加入者名 日本発生生物学会

口座番号 名古屋 42801

2. 現在DGDの基金を募集中です(サーキュラーNo.22参照)

1口 1,000円(1人何口でも可)

払込先 郵便振替名古屋 42801

日本発生生物学会

(振替用紙の裏面に“DGD基金”と説明して下さい)

3. サーキュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと(たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など)、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。なお、原稿は事務局、庶務幹事、あてお送り下されば、幸いです。

I 第14回運営委員会報告

第14回運営委員会が1月19日愛知会館において行なわれた。議事、報告下記の通り。
出席者：梶山（会長）、江口、岡田（節）、岡田（善）、酒井、波磨、石崎、以上運営委員。事務局より、井出、石母田、緋田、高橋。DGD編集局より、小嶋。

§1 事務局役員の交替

新幹事がつぎのように決まり、会長より紹介された。なお、事務局の住所および電話は今まで通りである。

名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部生物学教室内

日本発生物学会事務局（〒464）電話（052）781-5111 内線 2512

幹事長：石崎 宏矩 庶務幹事：井出 宏之 会計幹事：石母田 忠

§2 昭和51年度暫定予算

下記の通り承認された。

昭和51年度暫定予算表

(収 入)		(支 出)	
前年度繰越し	400,000 (円)	編集局経費	1,850,000
学 会 費	2,700,000	事務局経費	1,000,000
DGD売上げ	2,000,000	DGD印刷製本費	4,200,000
広 告 代	400,000	サーキュラー印刷費	100,000
単行本売上げ	900,000	運営委員会経費	100,000
文部省助成	750,000	第9回大会講演要旨印刷費	350,000
利 息	30,000	第9回大会援助費	50,000
DGD充実のための基金	650,000	運営委員・会長選挙費	50,000
		振替手数料	30,000
		会員名簿作製費	50,000
		予 備 費	50,000
計	7,830,000	計	7,830,000

§ 3 会則変更について

会則検討委員会（サーキュラーNo.20参照）の報告が江口委員よりなされた。会則のうち検討を加えられた箇所は次の通りである。51年度総会において討論、採決される予定であり、会員の皆様の御検討をお願いしたい。

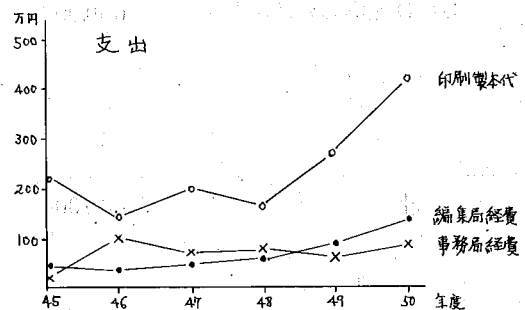
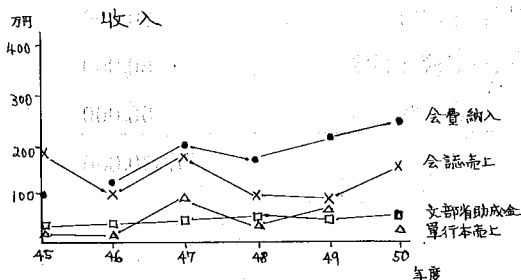
改訂予定箇所

1. 会則の冒頭に、「会則は本則・付則・選挙細則よりなる」を入れる。
2. 本則第5条、2項末尾に、「会長が不測の事故などによりその任務を遂行できなくなった時は、運営委員会の議を経て会長代行を置くことができる」を入れる。
3. 本則第11条「本会の会則および付則の変更は」を「本会の会則の変更は」に変更する。
4. 付則第3条、1項のうち、「その際、運営委員会はそれぞれ若干名の……」の一文を、「その際、会員はそれぞれ若干名の候補者を推薦することができる」に変更する。
5. 運営委員選挙施行細則（サーキュラーNo.13参照）第4条のうち「ただし、記名された数が14名に……他は無効とする」の一文を削除する。

§ 4 学会費値上げについて

御承知のように、このたび郵便料金が大幅に値上げされた。また昨年来の印刷製本費、人件費その他の物価上昇は目をおおうばかりのものがある。昭和50年度は会員の皆様の御協力を頂きつつあるDGD充実のための基金により、DGD増頁、充実は順調に進んでいるが、一般財政の状態はまことに憂慮すべき状態となっている。従って、学会費値上げはさげられない状態であり、慎重討議された結果、昭和52年度より学会費を6,000円とする案が採択された。次回総会において討議、採決されるので、あらかじめ御検討をお願いしたい。御参考までに、収入、支出の主な内訳の過去6年間の推移表を下に掲げた。

なお、DGD国内機関購入は8,000円（Vol.18, No.1より）に、国外機関購入は10,000円（Vol.19, No.1より）に値上げすることが決められた。



§ 5 会費未納に伴う会員権の停止について

従来会費未納1年で、欧文誌の発送を停止することが決定されている（サーキュラーNo.13, p.4, 第8項）。欧米誌の配布に限らず、サーキュラー配布、会長・運営委員の選挙権ほか、一切の会員としての権利を停止することが決められた。

§ 6 昭和51年度大会の準備状況

表記について岡田(善)大会準備委員長より報告があった。(別項参照)

§ 7 昭和52年度大会の開催地候補

東京地区が候補地としてあげられた。

§ 8 DGDの編集状況報告

1975年度の大会で第17巻は1975年中にお届けすることを会員にお約束しましたが、予定より1ヶ月おくれ、1976年1月に第17巻、第4号をお送りすることになりましたことをお詫びします。これは12月のストライキの影響によるところが大でありました。

1975年は、論文36編、総頁数約400頁となりました。1976年は、これより減少することはないという見込みで、編集委員会で計画しましたが、次の3つの点で従来の方針に変更を加えることになりましたので宜しく御協力をお願いします。

- 1) 紙面の印刷面積を142×204 mmに広げる。これは印刷経費の節約にはなりませんがこの方が体裁上良いのではないかという面と、頁数の減少による郵送費の節約という面とから変更しふみ切りました。図を用意される際に、上記の面積を考慮して下さい。
- 2) 論文の引用のスタイルをかえる。Referenceは従来通り、第1著者のアルファベット順に番号を付して並べ、テキストへの引用は原則として、著者名ではなく、番号によって行なうこととする。
- 3) 従来、印刷12頁をこえる場合に超過頁印刷経費を著者に負担して頂いていましたがこれを10頁とする。印刷面積の増大に伴う処置とお考え下さい。

なお、以上の変更はVol. 18, No. 2から実行の予定でしたが、現在、No. 2に掲載すべき、従来のスタイルで書かれた原稿が数篇、すでに編集オフィスにありますので、混乱を避けるため、Vol. 18, No. 3から実施を始めます。

Vol. 18, No. 1の原稿(10篇、うち団先生記念論文6篇)はすでに印刷に回付しました。

(DGD編集主幹 岡田節人記)

§ 9 単行本委員会からの報告

岩波書店から刊行されている発生生物学会編集の単行本は、現在第5集の「受精の生物学」(編集担当：毛利秀雄・金谷晴夫)を印刷中で、初校の段階でさらに改訂を行なった後、出版する予定である。また第6集「変態」(仮題)は日高敏隆氏を中心に計画が進められている。いずれ計画がまとまり次第、近く各章の予定執筆者に執筆依頼を行なうことになっている。

(単行本委員会委員長 金谷晴夫記)

II 日本発生生物学会・第9回大会の御案内

第9回大会は5月27日(木)～29日(土)の3日間大阪大学微生物病研究所に於て行なわれます。準備委員会ではその大綱を下記のように決めました。多くの方々の御参加をお待ちしております。

1. 大会期日

5月27日(木)～29日(土)

2. 会場

大阪大学微生物病研究所 講堂(吹田市山田上)

3. 参加申し込み

参加希望者はサーキュラー同封の振替用紙(口座番号：大阪10654、加入者名：発生生物学会第9回大会)を用い、大会参加費として2,000円(学生、院生1,500円)を、3月22日までによりの郵便局にお払込み下さい。その際通信欄に、所属・氏名・講演の有無を御記入下さい。なお払込票を以て領収証にかえさせていただきます。

4. 講演申し込み

講演希望者は、講演要旨をサーキュラー同封の原稿用紙に記載の上、3月22日(必着)までに

〒565 吹田市山田上 大阪大学微生物病研究所 岡田 善雄

あて御返送下さい。

- a) 講演要旨はそのまま写真製版されますので誤字のないように御注意下さい。また、御返付にあたって原稿は二ツ折にし、厚紙をあてて折れまがらぬよう御配慮下さい。
- b) 講演者は51年度までの会費を納入した会員に限ります。したがって会費未納の方、および非会員の方の講演は受けつけませんので御注意下さい。
- c) 講演は1人1題です。但し共同研究者として加わっておられる場合はこの限りではありません。
- d) 講演時間は討論を含めて1題20分を予定しています。
- e) なお大会参加費(3. 参照)は別途3月22日までによりの郵便局にお払込み下さい。

5. 講演要旨集

講演要旨集は、大会への参加の有無にかかわらず、会員全員に配布致します。

6. その他について

大会についてのお問い合わせ、御意見は下記にお申し出下さい。

〒565 大阪府吹田市山田上

大阪大学微生物病研究所

岡田 善雄 (Tel 06-877-5121 内線 3123)

III 国際発生生物学会議の準備状況

すでにサーキュラーの前号で通知しましたように、1977年に東京で開催される国際発生生物学会議の第1回サーキュラーが作られました。必要な方は下記にお申込み下さい。

東京都文京区本郷

東京大学理学部動物学教室

国際発生生物学会議準備委員会事務局 寺山 宏

プログラムについては、J. D. Ebertと岡田節人を委員長とする委員会で検討されています。すでに前回のサーキュラーで通知しましたが、1976年3月をもって意見の徴収を終え5月中に原案作製の予定です。

(団 勝磨記)

IV 会員名簿作製について

本学会会員名簿は、昭和47年に作製以来、その内容にかなりの変更が累積されてきました。本年末に行なわれる会長、運営委員の選挙を機に、新名簿を作製してお届けする予定であります。つきましては、すでにお届け出になっておられます所属(あるいは住所)、テーマ・実験材料などに変更があります節は、至急事務局あて御連絡下さい。御通知のない節は、従来通りとみなして記載させて頂きます。

V DGD充実のための基金募集経過

会員の皆様の御協力により、DGD基金は現在869,500円に達しました。基金をお寄せ頂いた方々の御芳名を下記させて頂きます(アイウエオ順)。

なお基金募集は現在も継続中ですので、ふるってお寄せ下さいますようお願いいたします。

払込先 郵便振替 名古屋42801 日本発生生物学会

1口 1,000円(何口でも可)

振替用紙裏面に“DGD”と明記してください。

基金をお寄せ頂いた方のリスト

朝井 悦夫	浅尾 哲朗	天野 実	池田満里子	石崎 宏矩	市川 純彦
宇和 紘	江口 吾朗	遠藤 善之	大木 健市	大西 英爾	岡田 克弘
岡田 節人	岡田 稔	長内 健治	片桐 千明	片倉 康寿	桂 茂
金谷 晴夫	河野 好伸	川上 泉	北里大学畜産学部家畜解剖学教室		
久保 俊之	黒田 行昭	今野健二郎	斉藤多久馬	鮫島 宗文	沢野 十蔵
渋谷 徹	島倉亨次郎	梶山 正雄	鈴木 明郎	鈴木 幸一	鈴木真太郎
鈴木 博	高市 成子	高尾 昭夫	高橋 等	団 勝磨	団 仁子
調子 昭一	寺門 潔	中西美智夫	中村 治	中山 知雄	能村 哲郎
花岡 陽一	波磨 忠雄	林 雄次郎	日高 敏隆	渊側 祐一	星野善一郎
堀 令司	増田恭次郎	松崎 守夫	松橋 肇	松本 邦夫	水野 丈夫
山上健次郎	山崎 正博	山田 明男	山本 時男	山本 忠	

VI 会 員 移 動

<新入会員>

氏 名	所 属	テーマなど
岩淵 雅樹	北大, 理, 植物	①細胞性粘菌の発生・分化におけるRNA合成の調節機構 ②Dictyostelium discoideum
安部 守	山形大, 理, 生物	①植物の形態形成②ヒバマタ, エゾイシゲ, ムラサキタマ ホユリカビ, ヒゲカビ
池上 晋	東大, 農芸化学	①卵形成②ヒトデ, ツバサゴカイ
Denis Larrivé	209 Berthier, Arvida, P.Q. Canada	Echinoderm & Mollusca

<住所変更>

	(旧)	(新)
阿久津四良	東京都目黒区下目黒3-19-4	茅ヶ崎市赤羽根376
斉藤 利子	東京都立八潮高校	(自) 東京都葛飾区青戸3-19-31-11
高岡 実	名大・教養	(自) 名古屋市瑞穂区市丘町1-9
長崎 紘明	東京教育大・理・動	老人研・生理

	(旧)	(新)
日高 敏隆	東京農工大・一般教育・生	京大・理・動物
平井 説郎	東北大・理・生物	東北大・理・臨海実験所
森 祐二	奈良県立大・細菌	広島大・平和科学研究センター

<退会会員>

高橋 好宏	東教大・理・動
谷本 英一	名市大・教養・生
中沢 潤	弘前大・教養・生
中西 敏昭	兵庫・川西緑台高校
藤村 有信	名古屋市衛生研究所
宮川 典之	熊本市